



課題考査に始まり、文化祭と、慌ただしく9月は終わりました。もうすぐ2学期の中間考査だというのに、毎日残暑が厳しいです。とは言え、お気づきですか？ 日の出は遅く、日没は早くなってきています。もうすぐ過ごしやすくなります。ひと踏ん張りがんばりましょう！

秋の読書週間について

10月27日(月)から11月11日(火)まで、秋の読書週間です。図書館では以下のようなイベントを行う予定です。ふるってご参加ください。

(1) 読書会

10月31日(金)の15時45分から16時30分ごろ図書室にて。石田衣良さんの『夕日へ続く道』をとりあげます。どなたでも参加自由です。

(2) おすすめ本の紹介

先生方や図書委員のお勧め本を、図書室内や図書室前の廊下に掲示します。様々な教科の先生方のご推薦です。意外な発見があるかもしれません。

(3) 展示

「食」に関する展示を行います。

(4) 図書券getのチャンス

読書週間中に図書館に来ると、図書券をはじめ様々なグッズをgetできるかも！

- ① 本を1冊借りるごとに応募券が1枚もらえます。
- ② 展示に関するクイズが書かれた用紙が貸出カウンターに置いてあります。答えると応募券が1枚もらえます。
- ③ 読書会に参加すると応募券が1枚もらえます

①～③で手に入れた応募券を応募箱に入れると、景品getのチャンスです。一人で何度でも応募できます。ドシドシご応募ください。

読書感想文

本年度の校内読書感想文コンクールの結果、以下の2作品が優秀賞に選ばれました。この2つは県のコンクールに応募しました。入賞を祈ってください。

1年3組 大森朱音さん「おいしいごはんを食べること」

(朝井リョウ『死にがいを求めて生きているの』)

1年3組 山下小遥さん「本当の想い」

(小川糸『ツバキ文具店』)

ビブリオバトル

1学期の終業式の日に行われた、校内選考の結果、2年5組の青木勝宏さんが選出されました。村崎羯諦さんの『余命3000文字』(小学館文庫)で勝負します。今後は、10月18日(土)または19日(日)に愛知県図書館で予選が行われて、勝ち上がると10月26日(日)の決勝に臨むことになります。予選の観覧はできませんが、決勝は応募参加できます。健闘を祈りましょう。

特集コーナー

文化祭から引き続き、雑誌のバックナンバーを差し上げています。どんなモノがあるか、確かめに来てください。



展示ケース

作品募集中です。手作りの作品やコレクションなど、みんなに紹介したいものがあれば、ぜひお願いします。図書館まで来てください。

図書委員お勧めの本

『 商う狼 』(永井紗耶子)【2年図書委員】

これは実在する江戸の商人、杉本茂十郎のお話。

ある日永代橋が落ちた。沢山の被害を出した事件で、茂十郎も妻と子供を亡くしてしまった。お上が腐っていたからこの事件は起こったのだと考えた茂十郎は、江戸を変えるために動き始める。江戸の商いのあり方にメスを入れて、改革をしていく茂十郎は、いつしか町の人々に「毛充狼」と言われるようになった。

街中を駆け巡る狼と言われるようになった茂十郎に、兄のような存在の弥三郎は、諫めようとする。その時に茂十郎が言った、「いざとなればね、金は刀よりも強いんですよ」という言葉が印象に残っている。

毛充狼である茂十郎、この人が何をして何を江戸に残したのか、あなたの目で確かめて。



『 メメンとモリ 』(ヨシタケシンスケ)【2年図書委員】

「りんごかもしれない」などの作品で知られるヨシタケシンスケの描く、「人は何のために生きているの？」のお話です。冷静な姉のメメン、情熱的な弟のモリ、のとおある姉弟を主人公にした、3つのお話が絵本になっています。大事にしていたお皿を割ってしまった、つまらない映画を観て時間を無駄にしてしまった、という、私たちにもよくある出来事を通して、いつか来るお別れ、損や得など、生きている限り断ち切ることのできない悩みに向き合っていきます。「身も蓋もない言葉の中にだけ希望を見いだせるときもある。」そのキャッチコピー通り、「楽しまなくても、生きていていい。」、「いつか壊れてしまうことより、一緒に過ごした時間の方が大切。」など、誰もが知っていても、忘れられてしまいがちな、大切なことを教えてくれるお話でした。

短い絵本で読みやすく、読後の気持ちが、ふっと軽くなる、おすすめの一冊です。

